

放牧による粗放的な土地利用を行うとともに、ワイン用ぶどう等の栽培で収益を確保し持続的な農用地保全を目指す

ひだし
〔岐阜県飛騨市〕

新規就農	企業参入	6次産業化	農地中間管理機構
粗放的利用・スマート農業	鳥獣害対策	地域・集落の共同活動	その他

1. 地域農業の状況

- 本地区は、岐阜県の最北端に位置し、周囲は標高3,000mを超える飛騨山脈などの山々に囲まれ、地区の大部分を山林が占める、雪深い地区である。
- 地域の営農形態は古くから果樹栽培が盛んであり、広大な果樹農地において、もも・りんごを中心に、ハウストマト、水稻等を作付けしているが、農業人口の減少及び高齢化が進む中、本地区における遊休農地は3.2ha、一部が荒廃している等荒廃化のおそれのある農地が50haあり、将来の農用地保全が懸念されている。また、野生獣（クマ、イノシシ、ニホンジカ）の果樹園等への侵入被害も頻発していることから、農業意欲の減退につながっている。
- 本地区から市内中心部や他市町村への移住が進んでおり、農地の継承・維持保全が困難になっていることから、粗放的な土地利用による農地管理の省力化や、管理主体に対する集約、獣害対策等を検討し、省力・低コストで持続可能な農用地保全を図る必要がある。



実施区域

2. 地区概要

取組主体	飛騨市	地区名	くろうち 黒内地区
再生面積	6.0ha	取組年次	令和6年1月～
作付作物	ワイン用ぶどう栽培、牛の放牧	販路	地元スーパー、観光農場

3. 取組内容及び効果

放牧による粗放的な土地利用、ワイン用ぶどうなど新たな特産物を活用し地域の活性化を目指す

本年度の取組内容

- 地域住民の協力を得ながら、地区内の遊休農地を活用した新たな農地の保全管理方法として、**ワイン用ぶどうの実証栽培を地ワインづくりを目指す地元スーパーとの協働にて実施**している。
令和6年度は、**ぶどう栽培に向けた農地再生として土地整備（1ha）**を行った。
- 地区内農地の管理労力を軽減することを目的として、山地酪農を志す移住者夫妻の協力のもと、**牛やヤギを活用した放牧による農地管理（5ha）**を行った。

期待する効果

- **粗放的な土地利用としての放牧場を観光農場として活用**し、既存の温泉宿泊施設、運動施設等と合わせて都市部住民の交流人口の増加を図るとともに、**ワイン用ぶどう等の栽培など地域の新たな特産物を活用した6次産業化の展開**により、半農半X等の農に関わる人口創出を推進し、地域の活性化を図る。



ぶどう栽培予定地 整備前



ぶどう栽培予定地 整備後

活用した支援策

R5～R6 農山漁村振興交付金（最適土地利用総合対策）（国）